

平成 23 年度地区懇談会(幌別西地区)議事録(概要)

平成 23 年 11 月 22 日(火)市民会館 出席者数 40 人

情報提供: 幌別西小学校前の牧草地について [担当: 農業委員会事務局総務G]

情報提供: 農業委員会事務局長

- ・土地所有者が高齢のため、家族の方と折衝を行っている。昨年 11 月の面談では、草地の借り手を探した結果、牧草地への復元には一定の費用が必要になることから、来春には自ら耕作するとの回答であった。
- ・本年 6 月上旬の電話での話し合いの結果、6 月 20 日に片倉町の自宅で家族の方と面談し、「いつまでも放置しておく気持はない」「体調が悪く耕作できなかった」「草地改良を行い、農地を利用する事業者を探している」との意向が示されたので、草地更新等に関する情報提供をご本人の家族に行うこととした。
- ・しかし、一向に改善が図られないことから、再度面談が必要と考え、9 月 15 日に文書を送付するとともに、9 月下旬から 11 月上旬にかけて延べ 10 回にわたり電話により連絡をしたが、本人の家族の長期不在もあり現在も連絡が取れない状況である。
- ・引き続き本人の家族へ働きかけていくが、平成 24 年度も適正な管理がなされない場合は、防犯・火災予防の観点からも放置できないということを踏まえ、市・市教委・農業委員会の職員で、本人の家族の了解のもと草丈が 60 cm を超える頃を見計らい、路肩から幅 3 m 程度で草刈りを行いたいと考えている。

意見:

- ・道道の脇を町内会で草刈りするようになったのは、女子高校生が暴漢に襲われそうになったことがきっかけ。我々が地主から許可をもらい、片倉町内会で道道沿いを刈った。市が、買い手を探せないなら、市の責任で刈るという許可を取ってほしい。
- ・牧草地で火災が起きたら、片倉町と新川町は大火になる。子どものことも危惧している。市が介入して地目変更できないか。宅地化して税収増を。

回答: 農業委員会事務局長

- ・農地の変更はかなりの制約があり、農業をやる意思がある以上、農地からの転換は難しい。
- ・牧草地は市街化調整区域で、市街化拡大の必要性がある経済情勢でないので室蘭圏都市計画区域では、市街化区域への編入は難しいと聞いている。ただ、何か方法はないか研究してみたい。

情報提供: 鹿の被害について [担当: 農林水産G]

回答: 観光経済部次長

- ・近年、エゾシカの生息数が増え、農林業被害をはじめ市街地への出没が増加している。
- ・交通事故等も懸念されることから、今年 3 月、鳥獣による市町村被害防止計画を策定し、この計画に基づき、平成 23 年度は 100 頭のエゾシカを捕獲することを目標と定め、猟友会などの協力をいただき、銃器での捕獲に加え、今年度から新たな捕獲手法として『くくりワナ』を導入し、実証試験を行っている。
- ・今年 2 月下旬にはエゾシカ被害防止対策として、幌別ダム鳥獣保護区において、道・猟友会・市の関係者 44 人で大規模・組織的捕獲作戦を実施し、期間中に 14 頭のシカの捕獲を行った。鳥獣保護区は、エゾシカの越冬地となっており、適正な個体数調整を行うためにも、来年の 1～3 月にかけて、幌別ダム鳥獣保護区における捕獲を昨年に引き続き実施する予定。
- ・エゾシカが市街地へ出没し、市に苦情や相談が多く寄せられている。この場合は、速やかに通報先に出向き対応しているが、市街地では銃器が使用できず、職員が山や河川敷に追い払う対応を行っている。
- ・また、市街地への出没時に交通事故や人身事故を引き起こす懸念があることから、市は広報紙やホームページで注意喚起を行っている。

情報提供:地域とともに描くまちづくり

説明: 市長

- ・幌別西地区を将来どんなまちにしていくなか、皆さんでこのような会議を開いて、この地区は何を重視しているのか、市にまちづくりのヒントをつくってほしい。
- ・幌別西地区は、1・2月に市が入らない場で話をし、その後、私と関係する幹部職員とで地区との話し合いに出向きたい。

地区連合町内会:

- ・年度内でどこまで追加できるか分からない。市の要請ではあるが、各単位町内会でまとめるにしても難しいかも知れない。

回答: 市長

- ・次の第3期基本計画の10年を考えないといけない。ワークショップをやらなければならないが、その材料がほしい。
- ・平成24年度から実行できるものはぜひ取り入れたい。来年度になっても追加で出してほしい。

その他:消防広域化について【担当:消防本部総務G】

意見:

- ・今朝の北海道新聞と室蘭民報で記事を読んだ。将来的には広域化が必要では。
- ・消防分団員の活用はどう考えているか。

回答: 市長

- ・室蘭民報記事の解説に市が考えていることが書かれている。最終の結論は出していない。広域消防を進めていく必要があると思うが、公共サービスとしての青図がない。
- ・市民にとっての消防力の話が置き去りで、手法ばかりの話では順番が違おうと主張している。目標が決まっていないのに各論の話はできない。

回答: 消防長

- ・市内には男女計154人の団員がいる。平成25年には100周年を迎える。
- ・広報紙やホームページでPRしているが、今は成り手が少ない。消防団はなくてはならない存在である。

その他:サイレン吹鳴訓練の結果について【担当:総務G】

意見:

- ・問題点や対応がまとまっていれば聞かせてほしい。

回答: 総務部長

- ・昨日の震災対応市民連絡会議の中で報告した。聞こえない場所にはサイレンの増設や動力サイレンの導入、携帯電話の防災メール、FMびゅ〜の活用など、総体的にやっていく必要がある。
- ・連合町内会役員会や単位町内会にもお知らせして、市民連絡会議でまた協議する。